



グリーンレター Green Letter

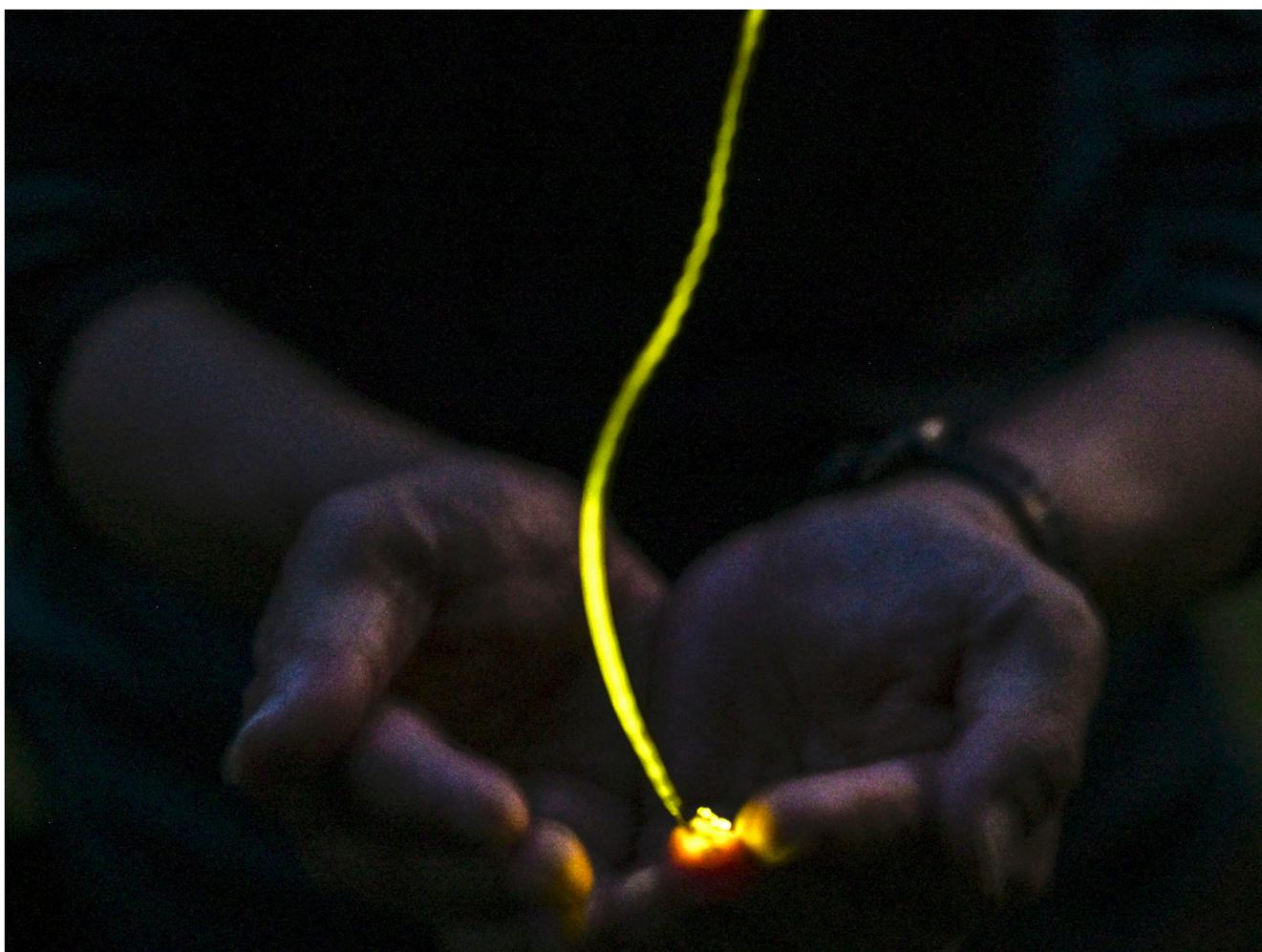
Green Column グリーンコラム

01 夏のハイケボタル

02 市街地に残る明治時代の名残

Vol.326

2024/08/01



鬼丸和幸 《ホタルの光》

Photo 今月の1枚

美幌町内でも、ハイケボタルが現れ始めました。光は熱を持つのが一般的ですが、ホタルの光は、俗に“冷光”と呼ばれ、発熱を伴わない仕組みで発光します。「発熱せずに発光する」というシステムは、非常に効率が良いため、工業的にホタルが光る原理を応用できないか、研究されていると聞きます。手のひらの中に、ホタルを入れてみると、温かくないことが実感できます。(鬼丸和幸)



01 Green Column グリーンコラム

夏の ヘイケボタル

写真・文／鬼丸和幸

今年、全国の至る所で、例年よりも早くホタルが出てきた、という話を聞きます。美幌町も例外ではなく、例年よりも1週間ほど早く、平野部の湿地でヘイケボタルが現れ始めました。郊外にあるため池周辺では、道路脇などに残された湿地などで、7月初旬よりヘイケボタルが飛び始めました。

ホタルというと、「きれいな川の清流で見られる生きもの」…というイメージを持たれがちですが、北海道に昔から自生しているヘイケボタルは、水の流れが緩やかな小川や湿地、水田、用水路などをすみかとしており、川の清流というよりも、“里山のちょっと湿った土壌の湿地”というイメージが似合います。

よく観光雑誌などで、「子どもを連れて、浴衣を着て、うちわを片手にホタル観賞」などとアピールされている

記事を見かけますが、北海道の場合、ヘイケボタルを野外で見られる時期は、肌寒く、長袖・長ズボンで観るとするのが現実的です。また、ヘイケボタルがすんでいる場所は、ヒグマが利用している場所と重なることも多いため、ヒグマ対処のために、多人数で、鈴やラジオを流しながら歩いたり、場合によっては、クマ撃退スプレーを携帯するなど、観察するにも、ちょっと緊張感を伴うスタイルとなっています。

成虫は、水しか飲まないこともあり、その寿命は7～10日ほどだと言われています。短い北海道の夏に、しかも短い期間でしか見られないヘイケボタル。ヘイケボタルは、北海道の、どこかにはかない夏の雰囲気を感じさせてくれる存在のような気がします。

市街地に残る 明治時代の名残

写真・文／八重柏誠



今年も7月6日よりロビー展「すごい標本！すごい資料！」が始まりました。私が紹介した資料は、なんと町そのものです。町の中にある明治時代の名残を探してきました。それは道です。

明治時代、美幌村では元町地区に代わる新たな中心地として、現在の大通り周辺に、市街地区画が設定されました。それが西1条～東1条・北2丁目～南2丁目の範囲にあたり、この時に設定された道路の幅のうち、もっとも幅の広い大通で12間（約21.84m）、他は10間（約18.20m）、8間（約14.56m）、3間（約5.46m）として設定されました。普段から大通周辺の道路の幅がバラバラだと思っていたのですが、ロビー展のために測ってみると、旭通から南側の道路については、明治時代に設定された道路幅と、ほぼ変わらないことがわかりました。

北海道の道路の基本になったのが殖民区画の測量によるものです。1辺が300間（約545m）の格子状に農地が設定され、その周囲に道路が作られました。美幌町でも、殖民区画による格子状の道路が基本となっています。航空写真や地図をみると、網走川や美幌川に沿って、道路が格子状に配置されているのがわかります。

それでは、殖民区画を基本にした道路と、市街地区画による道路が接続している場所は、どうなっているのでしょうか。写真の場所がそれにあたり、真っ直ぐに繋がっていないのがわかります。普段、なにげなく使っている道路ですが、突然、道幅が変わったり、クランク状に道路が繋がっていたりする場所は、明治時代に設けられた道路の影響が残っているのかもしれません。

Exhibition 展示

特別展「フィルムで振り返る美幌の歴史」

10月20日(日)まで

ロビー展「すごい標本!すごい資料!」

10月8日(日)まで



Event イベント

持ち物等は申込時にご確認ください

夏だ!昆虫グッズ!無料レンタル

8/31(土)まで

受付/美幌博物館

参加費/無料

プチ工房「貝がらの小物入れ」

8/9(金)、10(土) 10:00~12:00、14:00~16:00 自由入室で作品
ができ次第終了

美幌博物館 1階 講座室・300円

講師/岡部有佳(美幌博物館)

対象/どなたでも(小学3年生以下は保護者同伴)

※お一人様1つ限り。

博物館講座(自然編)

「美幌の地質学~屈斜路湖の大爆発でできた美しい火山灰大地」

8/31(土) 10:00~11:30

美幌博物館 2階 視聴覚室

講師/長谷川 健氏(茨城大学)

対象/中学生以上(小学生以下は保護者同伴)

申込み/申し込み不要

送付先の変更、または停止などをご希望の場合

お引越しなどでご住所が変わられた、あるいは送付を止めてほしいなどのご希望がございましたら、美幌博物館までお知らせください。



Tweet つぶやき

先日、北海道博物館大会に出席するために函館市まで出かけてきました。久しぶりの函館市でしたが、晴れていても爽やかな風が吹いていて快適!市内での移動に函館市電を使いましたが、ゆったりと流れる車窓からの眺めも楽しむことができました。(八重柏誠)



美幌博物館月刊情報誌 Green Letter

【発行】美幌博物館

【デザイン】城坂結実

【編集】八重柏誠

【お問合せ】美幌博物館

〒092-0002

北海道網走郡美幌町字美禽 253-4

Tel. 0152 (72) 2160

Fax. 0152 (72) 2162

